

中学校 美術

中学校 特別支援学級（美術）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること）

- 1 次の各文は、中学校学習指導要領（平成20年3月告示）「第2章 各教科 第6節 美術」より抜粋したものである。（ ）内の①～⑧にあてはまる語句を記せ。

第2章 各教科 第6節 美術

第1 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年〕

1 目標

- (1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
- (2) 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに（ ① ）し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
- (3) 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。

2 内容

A 表現

- (1) 感じ取ったことや考えたことなどを基に、（ ② ）や（ ③ ）などに表現する活動を通して、（ ① ）や構想に関する次の事項を指導する。
 - ア 対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すこと。
 - イ 主題などを基に、全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
- (2) 伝える、使うなどの目的や（ ④ ）を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、（ ① ）や構想に関する次の事項を指導する。
 - ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて、構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。

イ 他者の立場に立って、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。

ウ 用途や（④）、使用する者の気持ち、（⑤）などから美しさなどを考え、表現の構想を練ること。

（3）（①）や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、技能に関する次の事項を指導する。

ア 形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて（⑤）や（⑥）の生かし方などを考え、創意工夫して表現すること。

イ （⑤）や（⑥）の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現すること。

B 鑑賞

（1）美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。

ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と（④）性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。

イ 身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化に対する関心を高めること。

〔（⑦）〕

（1）「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 形や色彩、（⑤）、（⑧）などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

2 次の文中の①～⑧にあてはまる語句を、それぞれ下のア～シから選べ。

文字の美しさやバランスを意識し、デザインされた書体のことを（ ① ）という。漢字の書体の代表的なものとしては、図A（ ② ）と図B（ ③ ）がある。同様に英字・数字の書体の代表的なものとしては、図C（ ④ ）と図D（ ⑤ ）がある。

企業名や商品名等を固有の統一的な形にデザインしたものを（ ⑥ ）という。また、図Eのように、イラストと組み合わせてデザインされるようなマークのことを（ ⑦ ）という。

また、文字ではなく、形と色でわかりやすく情報を伝えることを目的とした図Fのような絵文字のことを（ ⑧ ）という。



図A



図B



図C



図D



図E



図F

ア エッチング	イ レタリング	ウ スクリプト体	エ ローマン体
オ ゴシック体	カ サンセリフ体	キ 明朝体	ク マーブリング
ケ ピクトグラム	コ ログマーク	サ ランドマーク	シ ログタイプ

3 次の作品Aに関する(1)、(2)の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

「燕子花図屏風」 尾形光琳作 根津美術館蔵

作品A

(1) 以下の文中の①～⑧にあてはまる語句を、それぞれ下のア～セから選べ。

作品Aは、(①)時代に描かれた(②) [国宝]という六曲一双屏風である。この作者(③)は京都に生まれ、風神雷神図屏風 [国宝]を描いた(④)の影響を受けた。(③)の他の代表作に(⑤) [国宝]がある。

彼らは、(⑥)や土佐派のように家系を中心とした継承ではなく、作風に対する共感により継承され、彼らより100年程後に(⑦) [重文]を描いた酒井抱一にも引き継がれている。この作風は陶器や漆工芸などにも及び、(⑧)と呼ばれている。

ア 室町	イ 鎌倉	ウ 江戸	エ 長谷川等伯
オ 夏秋草図屏風	カ 燕子花図屏風	キ 琳派	ク 紅白梅図屏風
ケ 円山派	コ 尾形光琳	サ 円山応挙	シ 四条派
ス 俵屋宗達	セ 狩野派		

(2) 作品Aと制作年代が最も近い作品を下のア～エから一つ選び○で囲め。また、その作品の作者名を記せ。

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

「イレーヌ・カーン・ダンヴェール嬢」
オーギュスト・ルノワール作
E.Gピューレー・コレクション財団蔵

ア

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

「モナ・リザ」
レオナルド・ダ・ヴィンチ作
ルーブル美術館蔵

イ

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

「真珠の耳飾りの少女」
ヨハネス・フェルメール作
マウリッツハイス美術館蔵

ウ

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

「泣く女」
パブロ・ピカソ作
テート美術館蔵

エ

- 4 中学校学習指導要領（平成20年3月告示）「第2章 各教科 第6節 美術 2 内容 A表現
（1）イ 主題などを基に、全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。」において、作品の制作から、その作品の鑑賞に至る学習指導について「題材」を設定せよ。その際、生徒の興味を引き付ける「題材名」を記し、「題材の概要」、「題材の目標」を記すとともに、題材の内容を反映した「題材の評価規準」を観点別に述べよ。